

新たな大学名称のもと更なる発展をめざして

谷口和久

学校法人 明治東洋医学院 明治国際医療大学 理事長

本学院では、1978年に我が国で初めて三年制の鍼灸短期大学として「明治鍼灸短期大学」を開学し、その5年後には四年制大学「明治鍼灸大学」への昇格を果たしました。そしてこのたび、鍼灸医学分野における高等教育機関の誕生から30年という記念すべき年に当たり、現在では3学部を有する大学へと成長し、更なる発展をめざして2008年4月に「明治国際医療大学」に改称いたしました。

新大学の名称には、「国際」と「医療」という2つのキーワードを取り入れ、特に「国際」につきましては、本学院の設置母体である専門学校から大学への歴史を振り返りながら、今後の展望への話を進めてまいりたいと存じます。

学院の沿革

1925年大阪の地に、本学院の前身となる「山崎鍼灸学院」が誕生いたし、2010年には85周年を迎えることとなります。この「山崎鍼灸学院」は「明治鍼灸学校」へと名称変更を経て、約1000名の方々が卒業されました。そして、第二次世界大戦後の混乱の中で一時は廃校を余儀なくされましたが、1959年には、「明治鍼灸柔道整復専門学校」として再建し（現：明治東洋医学院専門学校）、2008年3月までの鍼灸学科卒業生数は約7800名、柔整学科が約5400名にのぼります。また、教員養成学科は、大学に設置していた時代の卒業生が65名、その後、大阪の専門学校に移行してからは約180名が卒業されているところであり、ほとんどの卒業生が鍼灸専門学校の教員として全国各地の教育現場でご活躍されています。

この専門学校において、1965年には、当時のドイツ鍼灸協会会長であったゲルハルト・バッハマン医学博士に名誉教授の称号が贈られており、また、先代の理事長が国際化の必要性を鑑み、1975年に専門学校に国際鍼灸科を開設し、3ヶ年の開設期間中に24名の方々が卒業され、現在、アメリカ合衆国、ドイツ、スウェーデン、イタリア、フランス等の国々

で開業されるなど広くご活躍されているところです。

その後、この専門学校での歴史と教育実績を確かな礎として、1978年に「明治鍼灸短期大学」が誕生し、これまでに569名の方々が巣立られました。そして、多くの鍼灸界の人々の希望であった四年制大学に1983年昇格し、大学名称も「明治鍼灸大学」となり、鍼灸学部の卒業生は2450名になります。その後、鍼灸学の大学院が誕生し、鍼灸学修士として144名、鍼灸学博士としては45名の方が鍼灸界で活躍されています。また、論文博士としましては、現在13名の方に鍼灸学博士を授与させていただきました。

一方、1991年には、姉妹校としてアメリカ・カリフォルニア州に“Meiji College of Oriental Medicine” (MCOM) を開学し、爾来2003年まで英語圏の人々に現地の鍼師免許の取得ができる養成教育とともに日本鍼灸の啓蒙を図ってまいりました。またその間には、ブラジルにおいて国際東洋医学学会を主催するなど国際的な貢献にも取り組んできたところです。

また本学院では、2002年、柔道整復分野における我が国初の高等教育機関として三年制「明治鍼灸大学医療技術短期大学部」の開設を果たし、その後2004年には、遂に四年制大学教育として明治鍼灸大学に「保健医療学部（柔道整復学科）」を誕生させるに至りました。そして、2006年には、本学院の特色である東洋医学を取り入れた3つ目の医療系学部として「看護学部」を開設し、これら3学部の充実と発展に尽力しているところであり、2008年4月に「明治国際医療大学」として新たなスタートをきりました。

ただいまの学院の歴史を踏まえ、大学名称の改称にあわせ各学部ならびに大学院の今後の展望についてこれから述べてまいりたいと思います。

鍼灸学部・大学院（図1）

鍼灸学部については、ご案内のとおり、学部そして大学院修士課程、博士後期課程が既に誕生してお



図 1

り、開設当初修士課程の入学定員8名から現在は16名となり、コース内容も臨床特化コースと研究特化コースの2専攻に分かれ、新しい時代のニーズに合わせた教育研究指導が行われています。さらに新たな大学名称のもとに本学大学院鍼灸学研究科では、日本鍼灸の安全で安心な治療法を発信するとともに本学の30年にわたる研究成果による治療効果を広く世界に発信していくことをめざし、通信制の修士課程の開設ならびにWHO コラボレーションセンター（鍼灸医学部門）の設置に向けて準備を進めているところであり、海外のメディカルドクター等の方々をも対象に日本の鍼灸医学教育を提供していければと願っております。

保健医療学部 柔道整復学科 (図2)

保健医療学部柔道整復学科は、大学院の開設には至っていない状況ですが、本学院では長年にわたり鍼灸医学と柔道整復学を教育の2つの柱として尽力してまいりましたので、一日でも早く柔道整復学分野においても修士課程、博士後期課程の開設をめざしてまいりたいと考えております。そのためにも、日本の柔道整復学の構築を図るとともに、世界の手技療法をどのような形で体系的に取り込むかを検討し、それを取り入れた教育を構築することによって、まずは大学院修士課程の設置をめざしていければと考えます。そして、大学院教育の充実を図ると同時に、日本の柔道整復学の優れた研究成果を世界に発信していければと思います。

また、2008年開催された北京オリンピックでの柔道は世界的に認知されているところですが、柔道整復学は、いまだに世界的に広まっていない状況にあります。柔道整復治療は安価な治療費で運動器系疾患の治療ができる技術をもっているところですので、国際的に広まった柔道と整復学を組

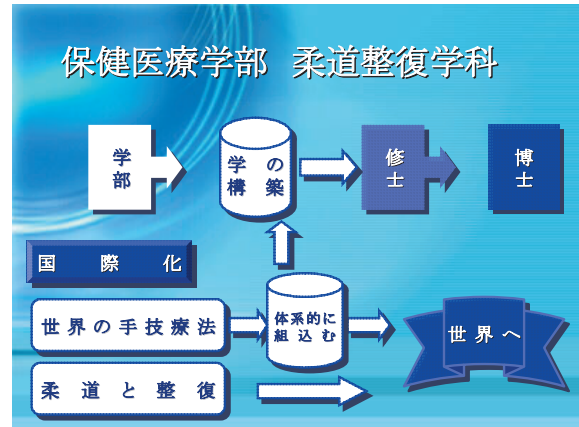


図 2

み合わせた形で、後進国の医療に貢献できればと願う所でありたいです。

看護学部 看護学科 (図3)

現在、日本の高等教育機関の学部設置申請の中で最も多いのが看護学部であり、また、専門学校教育から大学教育へと移行している傾向にあります。ご案内のとおり、医療機関での看護師不足の問題から、今後さらに看護学部の設置増が予想されますが、本学の看護学部では、その特色である東洋医学的な教育を取り込んだ看護学部教育を完成し、その充実を図るとともに、できるだけ早期に次のステップである大学院の修士課程、博士後期課程の設置をめざしていければと考えております。

なお、日本の医師不足が社会問題になる中で、歯科医師の方々に麻酔科を分担いただくのはどうかなど新しい提言が出てきております。また、新聞記事によりますと、アメリカの一部の州では看護のドクターコースでは、内科医の医行為の一部が行える資格まで与えられるということもあるようですので、日本における看護師・保健師の業務も今後相当拡大

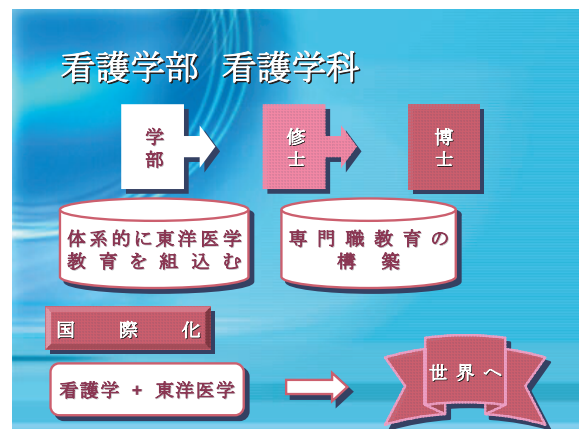


図 3

していくのではないかとされます。そうした流れも含めた形で時代に合った看護教育を構築すると同時に、看護学と東洋医学をより有効な形で組み合わせた教育を行い、その成果を世界へ発信していければと願っております。

統合医療 (Integrative Medicine)

本学は「明治国際医療大学」に改称するとともに、英文名称を“Meiji University of Integrative Medicine”と改称し、「統合医療」というキーワードを英文名に付けました。よく、CAM (Complementary and Alternative Medicine) の話を耳にし、補完代替医療に鍼灸が入るといふご発言が多く聞かれますが、私が考える鍼灸医療は補完代替医療 (CAM) ではなく、西洋医学と同等の Integrative Medicine の構成員であると考えます。あくまでも患者さんを中心として、医師・歯科医師・鍼灸師・柔道整復師・看護師・保健師・歯科衛生士など、医療専門職の方々が患者さんのためにはどのような治療 (予防) 法が一番安全で安心して早く治せるのかを考え、体系化しながら実践をめざしていければと思います。

なお、日本における統合医療と、世界の各国にお

ける統合医療とでは、医療制度の問題や経済状況の問題、また各国での Co-Medical の資格の違いがあるところですので、それぞれの国・地域に合った統合医療を構築していかなければならないと考えます。

連 携

最後になりますが、我が国の現下の医師不足といった社会状況の中でも医学部の新規参入は難しく、現存する医学部の収容定員増で対応するという状況にありますので、本学に医学部東洋医学学科を設置することは困難であることから、例えば新しい観点で大学院連携を検討し、本学と医科大学と薬科大学などで連携を取り、大学院統合医療研究科や大学院東洋医学研究科といった形で統合医療を実践できる方々の養成ができ、全国どこの地域においても安心して医療を受けられる体制に少しでも貢献していけたらと考えております。

以上、新たな大学名称のもと皆様方の力強いご協力とご支援により、本学がその使命を果たしつつ益々新しい未来に向けて発展していければと願い結びといたします。